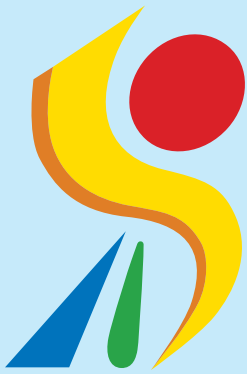




村山医療センターの銀杏 2010年秋撮影



独立行政法人 国立病院機構

村山医療センターニュース

理念

患者さまの視点に立ち、良質で高度な医療を提供します。

基本方針

- 患者の皆様の権利と意思を尊重します。
- 安全で優しいチーム医療を提供します。
- 倫理を重んじ高度で先進的な医療を提供します。
- 地域医療連携の促進を図ります。
- 骨・運動器疾患の臨床研究を推進します。
- 職員は研鑽に励み、健全な経営に努めます。

第46号

2012.10

発行責任者 院長 臼井 宏

診療科のご案内

整形外科（脊椎・脊髄）

手術部長（整形外科医師） 塩田 匡宣



手術で治せる病気や症状と治せない病気や症状

文明が発達し、医学もそれに伴って進歩していますが、鉄腕アトムの超近代的時代である21世紀になっても未だに治せない病気はたくさんあります。むしろ治せる病気、症状は限られているといったほうが適切かもしれません。脊椎・脊髄疾患に関しても同様です。当院で手術的に治療を行っている代表的疾患には、頸椎椎間板ヘルニア、頸椎後縦靭帯骨化症、頸椎症性脊髄症（頸髄症）、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニアなどがあります。

腰椎椎間板ヘルニアは飛び出したヘルニアが神経の枝である神経根を圧迫し症状を出します。神経根が圧迫されることによる典型的な症状は片側の下肢痛ですが、腰痛などの他の症状を伴うこともあります。ヘルニアの摘出手術により神経根の圧迫が消失すれば下肢の激痛はほぼ消失しますが、腰痛まで改善するとは限りません。それは腰痛の原因が多彩で、必ずしもヘルニアによるとは限らないからです。

腰部脊柱管狭窄症は腰椎部で神経の通り道が狭くなり神経が圧迫され症状を出しますが、背骨に“がた”が来ていわゆる“すべり”や“側弯”などを伴っている場合もあり、病因は腰椎椎間板ヘルニアよりもずっと複雑です。手術をして歩行能力が格段に改善しても軽度のしびれや腰痛が残ることはまれではありません。

頸椎の病気では術後に歩きにくさや手のぎごちなさ、強い痺れあるいは痛みが改善しても、何らかの症状が残ることがほとんどです。場合によっては症状の改善があまり期待できなくても悪化を遅らせるためだけに手術をすることもあります。

今まで述べてきたことは、手術をしても症状が残るのでは手術の意味がないというものではありません。術後に残った症状ではなく手術によって得られた改善や手術を受けずに症状が進行した場合を考えれば、手術の意味が分かるはずです。放置すれば歩けなくなると予測される方が手術によって歩行能力を維持できる場合があります。また、手術によって劇的なあるいは明白な効果が得られ日常生活が格段に改善する方々があります。

病名は同じでも症状や病気の状態はそれぞれ違います。病気を治すためには手術も厭わないと現在お考えの方は、まずその病気や症状が手術の対象となるか否かを医師に確認する必要があります。そしてもし手術の対象となるものでしたら、手術の目的、手術によって改善する症状と残る可能性のある症状などについての詳しい説明を聞き、十分理解、納得してから手術を受けることが大切です。

現場シリーズ

薬 剤 科

薬剤科 副薬剤科長 内野 悦夫

当院では原則として、外来で診察を受けられる患者さまには『院外処方せん』を発行し、病院の中ではなく、保険調剤薬局（以下、「薬局」といいます。）でお薬を調剤していただくことをお願いしています。この『院外処方せん』は医薬分業を推進する厚生労働省の基本政策の一つとなっています。

現在当院の薬剤科には約800種類の医薬品がそろえられています。筆者が20年前にこの病院に勤務していた時には、存在しなかった薬（新薬）がその半分を占めます。新薬の開発はめざましく、このことは人類の病に立ち向かう努力の結果であり、それにより多くの人々が痛みや苦痛から解放された事と思います。しかし、薬は効果といわれる良い作用のある一方、本来期待する作用でない副作用というものを必ずもっています。全ての患者さまに起こるものではありませんが、副作用により命を落とした患者さまが世界中にいるのも事実であり、患者さまへの副作用情報の提供、副作用の早期発見に寄与することも私たち薬剤師の大きな役割となっています。また、複数の病院を受診してお薬をもらっている場合、お薬の重複や飲み合わせに問題が生じることもあり、この飲み合わせに問題があるお薬の服用で重篤な症状をおこした患者さまの事例もあります。このような、お薬に係わるいろいろな問題を解決する事が、厚生労働省が『院外処方せん』を推進する要因の一つなのです。では、『院外処方せん』の必要性について少しお話します。

*「かかりつけ薬局」を作りましょう。

『院外処方せん』は日本中のどこの薬局でもお薬を調剤してもらうことができますが、当院の薬剤科窓口では「この近くの薬局はどこにありますか？」と質問されることがよくあります。その際は、「ご自宅の近くに薬局はありませんか？」と返させて頂いています。これは、複数の病院等でお薬を処方されることを想定し、重複投与、飲み合わせなどのお薬でのトラブルを回避するため、「どこの病院から『院外処方せん』をもらっても、この薬局に行く！」といった「かかりつけ薬局」を是非ご自宅の近くに作っていただきたいからです。そして、薬局の薬剤師から納得いくまでお薬の説明を受けて、安心してお薬を服用していただきたいと思っています。『院外処方せん』には、こんなメリットもあります。発行日を含めて、4日間が有効期限です。忙しい時は有効期限内であればいつでも調剤してもらえます。「かかりつけ薬局」であれば『院外処方せん』をFAXすることで、院外の薬局で待たずにお薬を受け取る事もできます。

*病院に受診の時は「お薬手帳」(写真)を持っていきましょう。

調剤をしてくれた薬局では、どんな薬が出されたのかが分かる“シール”を作ってくれます。そのシールを貼る手帳を「お薬手帳」といいます。この「お薬手帳」を見れば、患者さまが今服用している薬がひと目で解り、医師の診察や処方せんを書く際の重要な手助けになります。ほんの少しの費用負担はありますが、病院を受診する時に必ず持って行く、健康保険証、診察券の仲間に「お薬手帳」も加えていただけますようお願いいたします。



お薬手帳

病棟紹介(2病棟)

看護師長 佐藤 みづほ

2病棟は整形外科の病棟です。チームワークの良さとスタッフの明るい笑顔が自慢の病棟です。患者さんの多くは、脊椎の治療目的の方です。全国の国立病院機構病院の骨・運動器疾患分野の高度専門施設である当院は、整形外科医15名中、10名が脊椎の専門で、その技術の高さに於いては中心的存在です。看護師は、小児期～老年期の成長発達段階に合わせた幅広い年代を対象に、整形外科分野において専門性の高い看護を行っております。

さて、脊椎という部分は人間が立って歩き、生活するためには大変大きな役割を担っている重要な部分です。脊椎疾患の中でも半数以上を占めているのが「腰部脊柱管狭窄症」「腰椎椎間板ヘルニア」という、成人から高齢者に多い病気となっています。また、12歳～16歳位の思春期の女子に多い「特発性側弯症」の手術も行っています。学校の長期休暇、特に夏休みを利用して入院される方が多く、この期間の病棟はサマースクールのように一挙に平均年齢が若返ります。しかし、側弯症の手術は決して簡単な手術ではありません。短期間とはいえ家族と離れ離れになり、「手術」という大きな壁を乗り越えなければなりません。手術直後は手術が無事に終わった安堵感を味わう間もなく、それから3～4日間は傷の痛みと、脊椎を矯正した痛みを乗り越えなければなりません。私達看護師は、患者さんの不安や痛みを最小限にできるように、できる限り寄り添い、日に日に回復してゆく実感とともに喜びながら入院生活を送ることが出来るように少しでもお手伝いができればと思っています。

高齢と言われる年代の方々には、退院後に再開することを楽しみにしている趣味の事などを笑顔で話して下さり、私達看護師もどれだけエネルギーをもらっているか分かりません。手術を受ける患者さんのみならず、入院されている患者さん全てがお持ちになっている心身の負担から少しでも解放され、「村山医療センターに入院してよかった」と心から思えるような治療と看護を提供していきたいと思えます。病院の理念である「患者さまの視点に立ち、良質で高度な医療を提供します」を念頭におき常に笑顔を絶やさずになりたいと思えます。脊椎に不安のある患者さんは是非、当院に足を運んでください。



新任の挨拶



7病棟看護師 河北 英子

出身地：千葉県
趣味：散歩、昼寝
初めまして。7月から看護師として働かせて頂いております。
頼りになる看護師めざして、頑張ります。よろしくお願いします。



リハビリテーション科 作業療法士 元井 修

出身地：岡山県岡山市
趣味：献血、サイクリング（子供と買い物）
8月より作業療法士として勤務させていただいております。患者さまが少しでも笑顔でよりよい生活を送ることができるように頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。



リハビリテーション科 言語聴覚士 平原 美緒

出身地：北海道
趣味：趣味はヘタですが合唱です。
8月半ばに富士山近くの病院から来ました。宜しくお願いします！



2病棟看護師 澤崎 加寿美

出身地：熊本県
趣味：スポーツ観戦
平成24年9月1日付で2病棟に配属になりました。整形外科は初めて経験する診療科なので、一から勉強したいと思います。どうぞよろしくお願いします。

転任の挨拶



治験主任(薬剤師) 田邊 和生喜

出身地：新潟市
趣味：スポーツ観戦
10月1日に千葉医療センターから転任して参りました。治験管理室で勤務しており、各部署の皆様と関わっていくと思いますので、どうぞよろしくお願いします。



薬剤科 製剤主任 野口 訓子

出身地：東京都八王子市
趣味：おいしいお店を見つけること
西埼玉中央病院からまいりました。まだ不慣れですが、患者さまにありがとうって言ってもらえるよう頑張りたいと思っています。よろしくお願いします。

脳内に呼吸のペースメーカー発見 (研究成果)

村山医療センターによる研究成果「脳内に呼吸のペースメーカー発見」の論文が英国の生理学雑誌に掲載され、10月1日の朝日新聞朝刊、日本経済新聞夕刊、10月2日の読売新聞朝刊でも紹介されました。本研究を解説させていただきます。

無意識でも呼吸が維持されている仕組みがわかった。脳の呼吸中枢にある細胞がペースメーカーとして一定のリズムで働いていることを、国立病院機構村山医療センターなどの研究チームがネズミを使った実験で明らかにした。睡眠時無呼吸症候群の根本的な治療の開発などにつながる可能性があるという。1日付の英科学誌に掲載された。

同センターの岡田泰昌室長らは、ネズミの延髄を使って実験。呼吸中枢を特殊な方法で観察したところ、息を吸うときに働く神経細胞に先んじて活動する細胞を発見した。神経細胞から出た老廃物を処理する細胞で、この細胞が活動すると一定のリズムで神経細胞を刺激し、呼吸が始まっていることを確認した。
(平成24年10月1日 朝日新聞朝刊掲載記事)

要点：呼吸のリズムが形成されるメカニズムは、長年の研究にかかわらず未解明でした。独立行政法人国立病院機構村山医療センター臨床研究センターの岡田泰昌電気生理学研究室室長・内科医長は、呼吸リズムを牽引する細胞を脳内の延髄で発見しました。驚くべきことにその細胞は、これまで脳機能の発現にあたって主役と考えられてきた神経細胞（ニューロン）ではなく、脳内の環境維持程度の役割しか果たしていなかったと思われてきたグリア細胞でした。この成果は、なぜこれまでの研究標的であったニューロンの活動」だけでは呼吸のリズム形成を説明できなかったかを示すとともに、脳科学の謎の一つを解明するものとなりました。

研究の背景：無意識下でも形成、維持がなされる自律的な呼吸運動は、生命維持に必須で、その停止は死に直結し、その障害は呼吸不全を惹起します。呼吸運動は横隔膜などの呼吸筋の活動によります。呼吸筋の活動は、延髄を中心とする脳幹部で形成される呼吸リズム形成神経機構により維持されています。呼吸リズム形成のメカニズムについては、長年に渡って研究がなされてきて、心臓のように自動的に周期的な興奮を起こす神経細胞（ペースメーカーニューロン）が駆動することによるとの仮説や、興奮性と抑制性のニューロンの相互作用によるとの仮説などが提唱されてきましたが、いずれの説もこれまでの実験データを完全には説明できず、呼吸リズム形成のメカニズムは、これまで謎でした。

研究の内容：岡田室長らは、ネズミを用いた実験により、延髄の左右の腹側部でpre-Botzinger complex（プレバツィンガーコンプレックス）と呼ばれる呼吸リズム形成の中核部位において、吸息性の神経活動に先行して活動を開始するアストロサイトという種類のグリア細胞を発見しました。さらにpre-Botzinger complex領域のアストロサイトを選択的に興奮させると、吸息性神経活動を起こしうることを確かめました。

具体的には、新生ラットの延髄から切り出されたpre-Botzinger complexを含む組織切片を特殊な色素で染め、細胞活動に応じた細胞内カルシウム濃度変化を可視化しうるイメージング法で観察し、吸息時に活動するニューロンに先行して活動を開始するアストロサイト（前吸息性アストロサイト）を発見しました。ニューロン活動のみを抑えるフグ毒を投与するとニューロン活動および呼吸神経出力は消失しましたが、前吸息性アストロサイトの周期的な自発活動は残りました。さらに、光を照射するとナトリウムイオンやカルシウムイオンが細胞内に入って細胞を活性化させる蛋白質をアストロサイトにのみ発現させた新生マウスから作成した延髄切片でpre-Botzinger complex領域のアストロサイトを光照射で興奮させると吸息性ニューロン活動が惹起されました。

これらの実験結果から、アストロサイトが呼吸リズム形成の中核であるpre-Botzinger complex領域において吸息性神経活動を駆動していると結論されました。

本研究の成果は、呼吸リズムは脳内のどの細胞によってどのように形成されているのかを理解するとともに、睡眠時無呼吸症候群や各種肺胞低換気症候群など呼吸中枢の異常に因る様々な呼吸異常の病態の解明、およびそれらの新しい治療法の開発に貢献すると期待されます。また、謎に包まれている脳の動作原理を理解するためには、ニューロンだけでなくアストロサイトの機能を解析することの重要性を示しました。



電気生理学研究室室長・内科医長
岡田泰昌

災害医療研修に参加して

企画課 契約係 深沢 貴喜

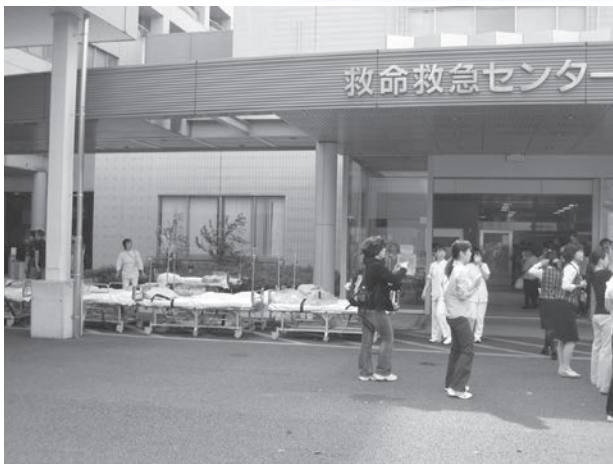
平成24年9月7日（金）に国立病院機構災害医療センターにて実施された災害研修に参加させていただきました。

東京都には災害拠点病院が平成23年4月1日現在で70施設もの病院があり、その中でも国立病院機構災害医療センターは、広域基幹災害医療センターとして都立広尾病院とともに東京都でも2つしかない災害時に中心となる病院であるとのことでした。

国立病院機構災害医療センターの災害訓練は本格的で実際に訓練に取り組む職員はみな迅速に且つ的確に行動していて、その姿は「本当に地震が発生しているのではないか？」と錯覚するほどのものでした。

武蔵村山市周辺では立川断層があり、今後30年の間に地震が発生する可能性が国内ではやや高いグループに属するとの見解もある中で近隣に災害医療センターのような施設があることは、この地域に住んでいる私たちからするととても心強くと感じるとともに、私自身もこの研修で学んだことを、災害時に生かせるように、常日頃から意識していきたいと思えます。

最後にこのような災害訓練は先着順になっているようですが、一般の方も見学が可能なので周辺にお住まいの方は是非、国立病院機構災害医療センターが実施する本格的な災害訓練を見学するのもよいのではないのでしょうか？



ID	名前	性別	年齢	色	時間	行先
35000112	マリアナ	女	20	赤		
35000112	マリアナ	女	20	赤		
35000113	マリアナ	女	27	赤		
35000124	マリアナ	女	20	赤		
35000118	マリアナ	女	20	赤	15:13	黄色
35000131	マリアナ	男	35		15:25	
35000129	マリアナ	男			15:37	

平成24年度自衛消防審査会に参加して

企画課 外来係 岸本 直樹

10月12日（金）に北多摩西部消防署主催による自衛消防審査会に参加しました。

今年は例年と比較して多くの事業所が参加したため、練習に充てる時間が基本訓練・放水訓練を合計してわずか3時間しかありませんでした。普段から病院と宿舎の往復くらいしか体を動かしていない私にとって、長袖・長ズボンに手袋をはめ、ヘルメットを被り、ホースを抱え走り回る訓練は非常に苦しいものでした。しかし、火災が発生した際の初動や消火栓の使用方法等、いざという時に必要となる知識を多分に得ることができました。

昨年は東北地方で大地震が発生し、災害がより身近なものになってきましたが、実際に災害が発生してから何をすべきかわからないことに気付いても手遅れだと実感しました。訓練の指導をして頂いた消防士の方が「自分の身は自分で守る。」という言葉は何度もおっしゃっていましたが、火災のみではなくあらゆる災害を想定した訓練を繰り返し行い、災害時の行動手順を確認することが自分の身を守る近道だと思います。



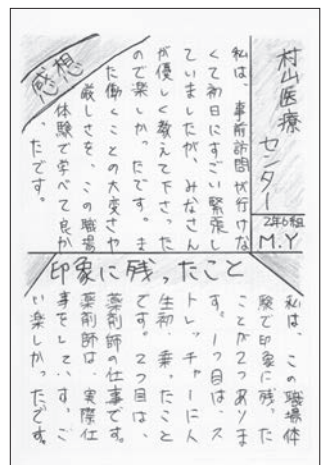
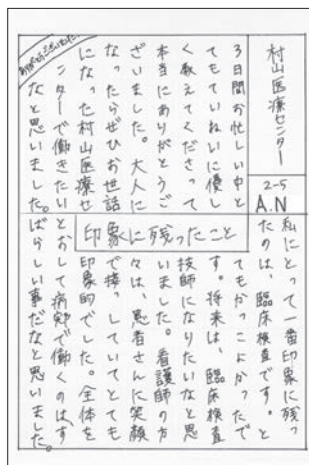
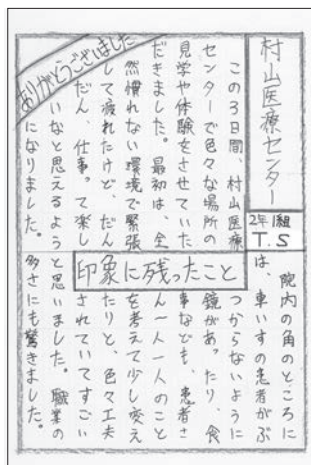
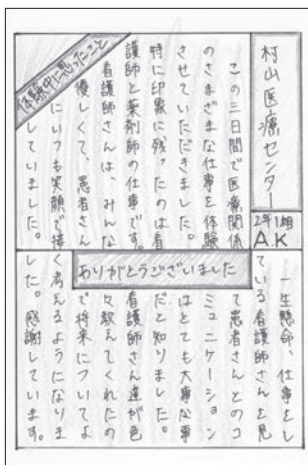
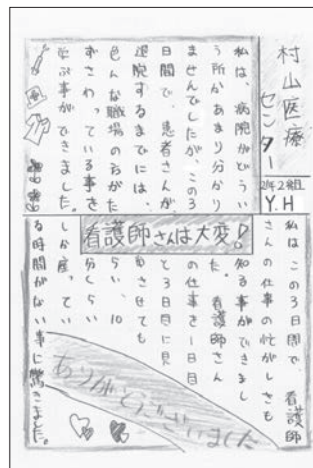
武蔵村山市立第五中学校職場体験学習を受け入れて

看護部 教育担当看護師長 伊藤 佐代

9月25日（火）から27日（木）までの3日間、5名の中学2年生の職場体験を実施しました。病院を知ってもらうこと、病院で働く職種の仕事を実際に体験してもらうことをお手伝いしました。

栄養士・看護師・検査技師・放射線技師・薬剤師・理学療法士の仕事を、実際に白衣を着て、体験してもらうことが出来ました。所要時間は様々でしたが、多くのことを感じたり学んだりしてもらえた様子でした。まだまだ他の職種も病院には働いています。

これからの自分の将来・職業を考える上での参考にできたという声を聞き、嬉しく思います。



第14回 村山医療センター市民公開講座

院長 臼井 宏

10月13日(土曜日)に武蔵村山市民総合センターで、当院の第14回市民公開講座「上肢の痛みと痺れ(しびれ)」を開催しました。当日は武蔵村山市のウォーキングイベントと重なりましたが、20人弱の方が参加されました。

市民公開講座は、1年に2回開催しています。当院の診療のなかで、比較的多くの患者さんが悩んでいる疾患や病態を選んで、専門の医師が、一般の方にも分かりやすく説明して、参考にして頂くことを心掛けています。今回は、整形外科の3人の医師がお話しました。

まず、町田臨床研究センター長が、上肢(肩から指先までをいいます)の痺れ(しびれ)についてお話しました。患者さんが「しびれ」と表現する症状の内容はさまざま、いろいろな病態を含んでいることを説明した上で、比較的多い病気である、手根管症候群、肘部管症候群について、症状や診断方法、治療について話しました。これらは腕の特定の場所で神経の通り道が狭くなって、神経が圧迫を受けて起こる病気です。上肢のしびれを起こす病気は、他にもたくさんあり、頸椎の椎間板ヘルニアなども頻繁に見られます。正しい診断が大事ですから、症状が続く場合は、早めに整形外科や神経内科で診察を受けることが奨められます。

次に、田邊医師が手や指の痛みについての話をしました。ヒトの手の構造の特徴や手や指の機能との関係からはじめて、手首の骨折の話、腱鞘炎などの病気の話、ユーモアを交えて話しました。手首の骨折はとて多い骨折で、ずれが少ない場合は手術をしないでギプスで固定する治療をしますが、ずれの程度によっては手術をして、関節をきちんとした形に整えて、関節の動きを保ち、痛みが出にくい関節にする必要があることを説明しました。また、年齢とともに増えてくる関節症というものゝ関節リウマチの違いや、腱鞘炎という病気の成り立ちや治療についても話がありました。

最後に、院長の臼井が、肩の痛みのお話をしました。同じ肩という呼び方をしますが、肩こりと五十肩では、痛みやこわばり、動きの悪さなどの症状がある場所が違います。肩こりは首の付け根から背中にかけて広がるいくつかの筋肉の痛みやこわばりを指し、頸椎の病気や時には内臓の病気の症状として生じますが、とくに病気がなく、姿勢の悪さ、運動不足、ストレスなどと関連して症状が起こっている方も多いことをお話しました。五十肩は肩関節の周りにある腱や関節の袋などの年齢的な変化に伴って起こる病気、多くは2年位のうちに治りますが、動きを悪くしないために、運動が大事であること、別の病気である場合もあるので、治りが悪い場合は整形外科を受診する方がよいと思います。

最後に、恒例の医療相談として、個々の方の質問をお受けして、医師がお答えする時間をとりました。

次回は、来年3月に、関節リウマチやその他の関節炎について開催する予定です。ホームページや市報むさしむらやまでお知らせしますので、たくさんの方のご参加をお願いします。





「糖尿病食事療法の基本」

栄養管理室 山田 直子

平成19年国民健康・栄養調査によると、日本国内で糖尿病が強く疑われる人は約890万人、糖尿病の可能性を否定できない人を合わせると約2,210万人と推定されています。20歳以上の5人に1人の割合です。また、糖尿病が疑われる人の4割が治療を受けたことがないという結果がでています。

糖尿病ははじめのうち、痛みなどの自覚症状がないので、検査で血糖値が高く治療が必要といわれても、そのまま治療を受けない人が多いようです。けれども、怖いのは糖尿病の合併症です。糖尿病による腎臓障害で人工透析を始める人は年間1万6千人、糖尿病による視覚障害の発生は年間約3,000人もいます。

糖尿病の治療のひとつに食事療法があります。食事療法の基本と言われる「バランスよく食べる」とはどのようなことでしょうか？

「バランスがよい」とは以下の3つをさします。

- ①**食事の内容**…ご飯などの主食、魚や肉などの主菜、野菜を主材料にした副菜をそろえる和定食のイメージ。これらを組み合わせることで、健康な生活を営むために必要な栄養素やビタミン、ミネラルが補給できます。
- ②**1回の食事での量**…1日3回でとる食事のエネルギー量（ご飯などの主食量）が平均していること。過食による食後高血糖や、摂取不足による薬物療法をしている場合の低血糖を防げます。
- ③**食事をとる時間**…食事の間隔（5～7時間）が一定していること。間隔が長くなるとお腹がすき、間食にもつながります。空腹感で早食いや過食の原因にもなります。

「バランスよく食べること」は、健康長寿食としてどなたにも心掛けていただきたい大事な基本です。

患者さまの権利と責任

1. 個人の人格は尊重され、安全で良質な医療を受ける権利があります。
2. 自分の受ける医療について、十分な説明を受けた上で自分の意思で医療の選択をする権利があります。
3. 自分の受ける医療に対し、不明な点は質問することができ、診療情報の提供を受けたり、開示を求める権利があります。
4. 個人の情報を直接医療に関わる医療従事者以外の第3者に開示されない権利があります。
5. 自分の受ける医療について、別の病院を受診したり転院することができます。その際、十分な診療情報の提供を受ける権利があります。
6. 自分の健康に関する情報を正しく提供し、また他の患者の診療に支障をあたえず、医療従事者と協働して医療に参加する責任があります。

臨床倫理指針

1. 患者さまの人格、信仰、意思等を尊重し、説明と同意に基づく患者さまの自己決定を優先します。
2. 患者さまのプライバシーを尊重し、守秘義務の遵守と個人情報の保護を徹底します。
3. 患者さまの尊厳及び人権に関わる医療については、臨床倫理委員会で審議を行い、方針を決定します。
4. 関係法規、ガイドラインを遵守し、検査・診断・治療・研究を行います。
5. 医療の発展のために積極的に臨床研究を行い、その実施においては倫理審査委員会において十分検討をおこないます。

平成24年度患者数の推移

【入院】（1日平均入院患者）

診療月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
合計	261.3	243.2	240.3	240.3	243.7	245.4							245.7

【外来】（1日平均外来患者）

診療月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
合計	217.5	220.5	213.9	210.6	211.0	219.2							215.4

外 来 診 療 担 当 医 師

H24.10現在

受付時間	診療科等	月	火	水	木	金	備考	
一般 外来	内科	山 縣	山 縣 志 方	山 縣 志 方	岡 田	岡 田 杉 本		
	外科	瀬 川	瀬 川	青 木	瀬 川	青 木	月曜日のみ 午後診療です (14:00~15:00)	
	整形外科	再診	臼井[関・整] 竹光[脊・整] 田邊[手・整] (午前のみ)	三宅[脊・整] 藤吉[脊・整] 名越[脊・整]	塩田[脊・整] 金子[脊・整] 八木[脊・整] 市川[関・整]	町田[脊・整] 臼井[関・整]	笹崎[関・整] 長谷川[脊・整] 飯塚[脊・整]	黒字：側 弯 白字：脊髄損傷
		初診	交替制	交替制	交替制	交替制	交替制	
	リハビリテーション科	宇 内	植 村	森	沖 塩	交替制 第5金曜日は休診	第1金曜…森 2 …植村 3 …宇内 4 …沖塩	
歯科	宮 本	宮 本	宮 本	宮 本	宮 本	宮 本	予約制	
専門 外来	手の外来				田 邊			
	内科 リウマチ				山 縣		予約制	
	整形外科 スポーツ外来(下肢)			笹 崎			予約制	
	側 弯	斎 藤 第4週のみ			町 田 金 子	町 田 第2・3週	予約制	
	骨粗鬆症				町 田		予約制	
	装具外来 (リハ棟)	植村・森 宇内・沖塩(※午後)					予約制	
セカンドオピニオン (整形外科)						予約制		

診療について

整形専門分野
(脊) 脊椎・脊髄
(関) 股・膝関節・下肢
(手) 手・上肢
(整) 整形一般

診 療 日 月曜日～金曜日(祝日及び年末年始は除く)

診療受付時間 初診の方 午前8時30分～午前11時00分

再診の方 午前8時30分～午前12時00分

※急患は(整形外科)随時受付けております。

専門外来については医事窓口にてお問合せ下さい。

毎月初めに保険証の提示をお願いします。変更のあった場合はお知らせ下さい。

独立行政法人国立病院機構 村山医療センター
〒208-0011 東京都武蔵村山市学園2-37-1
TEL 042-561-1221(代) FAX 042-564-2210
URL : <http://www.murayama-hosp.jp/>

武蔵村山さいとうクリニック

院長あいさつ

専門性をとことん追究する医療を窮屈に感じはじめ、自分の目標とする医療の在り方を実践したいと4年前の2008年、故郷、武蔵村山にクリニックを開業しました。

1. 何でも診る
2. 全ての患者さんに“父であり、母であり、家族”だと思って接する

という理念のもと、できる限りの精一杯の医療をチーム一丸となり実践しています。

そもそも私自身、外科医ですので内科系の患者さん以外にも多数の外科系、整形外科の患者さんが来院されています。さらに第二の顔として総合格闘技(MMA)のリングドクターもやっていますので試合や練習で外傷を負った選手も多く来院されています。

このような多くの患者さんのために貴院のような専門性の高い総合病院と医療連携がとれることを大変心強く思い、日々の診療を安心して行うことができます。当院は、地域に根付いた医療を目指し、あえて、専門性を持たないジェネラルクリニックとしてやっています。言うならば“専門がないことが専門”です。

全ての患者さんに対し親身になって接し、出来る限りの事をできる限り行い、患者さんには医療に納得し満足していただけるように職員一同が心がけております。

鼠径ヘルニアや内痔核、下肢静脈瘤、上部下部消化管内視鏡手術などの日帰り手術を行い、マルチスライスCT、超音波検査などの検査機器、リハビリテーション室などのハード面を充実させ、往診や併設の訪問看護ステーションなどの在宅医療も行っています。

まだまだ若いクリニックですが、今後も村山医療センターと密な医療連携を継続できれば幸いです。これからもよろしく願いいたします。



院長 齊藤直人 先生



診療科

内科(消化器・循環器・呼吸器)、外科、
小児科、皮膚科、肛門外科、
リハビリテーション科

受付時間

月～金：午前 9:00～12:30
午後 15:00～18:30
土：午前 9:00～14:00

休診日：日曜日・祝日

住所：東京都武蔵村山市大南3-68-3
西武拝島線 玉川上水駅下車 徒歩15分

電話：042-590-2266 FAX：042-590-2277

Email: musashiclinic@gmail.com

http://www.msaito.jp/